

札幌文化芸術円卓会議テーマ案項目分類表

平成24年(2012年)3月28日

	産業化(アーティスト、市民、行政で価値の交換・循環が滞りなく行われる)⇔アート市場の拡大				
	質を高める	文化芸術を支える人材育成 (アートマネジメント)	市民の意識を高める	子供と教育	札幌の文化を地場産業にする道→創造都市
伏島委員長					1 札幌で文化を地産地消 ○文化の生産と利用の相互作用ネットづくり ○文化芸術のるつぼ(参加・溶解・再生産の拠点) 2観光文化都市さっぽろの理想像 ○札幌の資産を活かす文化産業のかたち ○自然と文化に引かれて滞在、移住 ○文化を仕事にする人々のくらし
伊藤副委員長	札幌の「浅さ(shallow)」を乗り越えられるシステム(場づくりや集約、再編成。組織でも、あるいは箱モノでも構わない)をどう構築し、「質」を高めていくか				
浅野委員	広い視野をもった学芸員/アートディレクターの必要性	広い視野をもった学芸員/アートディレクターの必要性	アート市場の拡大/市民:アーティストの意識をあげていく	札幌市写真ライブラリーの廃止を教訓として施設評価とその施設を利用した子供たちへの教育とのかかわり	札幌のアート(写真を中心に)をもっと身近に、そして世界に向けて発信する
荒川委員	市内で活動しているグループ、アーティストが抱える問題をアンケートして市が問題を把握する。 市の文化の課題に繋がるものがあれば、解決していくべき。		演劇、音楽、美術、書、写真、文学等々、どのような方法でファンを増やしていくのか、市の立場、アーティストの立場でできること 観光文化情報ステーション以外に、広報さっぽろ内にイベント情報のページを設けたり、マスコミと連携するなど広報活動		
井出委員		人材育成 各分野での若手育成プロジェクトに対する支援 マネージメント・舞台裏方スタッフ人材育成		アウトリーチ(こどもの文化芸術体験活動の推進)	地域の文化芸術の育成
漆委員		表現者と場(社会・市民)の繋ぎ手となる人材の発掘と育成の為に必要なシステム、環境の整備			

	質を高める	文化芸術を支える人材育成 (アートマネジメント)	市民の意識を高める	子供と教育	札幌の文化を地場産業にする道→創造都市
齋藤委員	市民とアーティストが相互に行き来できるシステム アーティストが市民であり、市民もまたアーティストになりうる。それを行政が支えるという仕組み				海外マーケットへのアートの配信と同時に、札幌へマーケットを招き寄せる仕組みづくり。
	市場(マーケット)を今以上に拡大するための、長期的に継続可能な支援				
	北海道の素材の持つ魅力とその可能性に共感できるアーティストとの協働作業				
	① 海外からの指導者の招聘 札幌の若手アーティストに中央水準の技術・知識が行き渡るような仕組みを作る				
② 海外アーティストの招聘 その作業過程を、市民や札幌のアーティストと可能な限り共有し、発表し、海外マーケットへ輸出 ここに滞在しここで作品を創り配信するアーティストを招聘					
田中委員	各分野の質の議論(質のレベルアップの問題)	各分野におけるアートマネジメントの人材育成・活動支援のあり方の検討			各分野による創造都市札幌の実現へのプロセス
	各分野のプロが札幌に存在する必要性(現在の状況の把握)	各分野の機能していない部分を探る(受け皿の問題)			
野田委員	現場はどのような支援を必要としているのか(もしくはしていないのか)。助成金などの金銭面だけでなく、イベントの企画・開催など機会の面での支援も含めて、文化芸術の質の向上を目指すという観点からの議論		文化芸術に対して市民が興味を抱くには、また実際に足を運んでもらうにはどうすればよいか。「文化芸術の享受・支援者」としての市民層をいかに厚くしていくか		
本家委員	「アーティスト・イン・レジデンス」滞在しやすい環境作りや、保障制度	「コーディネーターの育成と雇用」アーティスト、行政、市民の架け橋となる人材の育成と雇用	広報の仕方 設置するだけの広報から、発信する広報へ	「おとどけアート」を年間3校から5校へ	環境整備 今ある建物や野外彫刻などを上手く活用し、どのように保全していったら良いのか
			11月を文化芸術月間と位置付け、現代のライフスタイルに合わせた個性的で活力ある地域づくり		